



柴田 勝紀社長

総合アイスパラントメーカーを目指し推進する柴田熔接工作所(社長)柴田勝紀氏、本社・福岡県福岡市南区塩原3-13-16。

常に新たな発想力と柴田勝紀社長自身のフットワークで九州に居ながらにして、既に全国区となつた同社の2015年は各種の需要を応分に獲得したことで伸長を遂げている。

同社の主たる市場先は食品関連(加工工場など)、ロジスティックセンター、水産関連などであり、こうした特定商圏における特殊なニーズに對するプロセスエンジニアリングとしての評価が高い。こうした需要を生

み出す背景は自社の設計能力に依るところが多々、民間中小の企業でありながら開発製品として、CO₂ユニットの製品として「CO₂トランスクリティカルプースターユニット」を開発したことは圧巻といえる。

大手と真つ向から製品力で挑むとした姿も同社のスタイルだ。一方で幅は実販について一部のメ

イカルプースターユニットは2014年には初号機を業界最大のイベントであるHVAC&R London 2014で出展され初のお披露目となり好評を得た。その後はドイツの大手コンプレッサメーカー、ピツァアーと

創っていくとのいうのが、当社のスタンストと柴田勝紀社長は話し、自社で設計し、各種のリリースを注入し完成させることで、元請として需要を捉えることができるという。CO₂トランスクリティカルプースターユニットはコンプレッサなどの心臓部及び冷凍機へは柴田熔接工作所が独自

CO₂の新たな市場づくりへ

柴田熔接工作所

首都圏進出でさらなる躍進を

広い海外製品との取引も同社の特長であり、一見海外製品は部品供給やサービス、メンテナンス面において不安視され敬遠されがちではあるものの、こうした諸問題を同社の技術力や調達力でカバーすることで、安定的な稼働へと繋げてきた。CO₂トランスクリテ

ーカーとのコラボレーションを進めている段階にある。「CO₂」に拘ることには理由がある。例えばアンモニア+CO₂といった様式は既に大手を中心に市場が存在しており、現状、パナソニックの独走状態にあるCO₂単体での領域に魅力があること。市場は常に自分で

に間口拡大として展開を図ってきたグローバルメーカーの製品をアッセンブリして組み上げ、制御系統へは、同社が一昨年、イタリヤの制御メーカー「CAREL社」と業務提携し立ち上げたCAREL JAPANを

トローラーや蒸発圧力調整弁、ホットガスバイパス弁や大型のCO₂電子膨張弁などを採用。フラッシュガスバルブの組み込みも可能とした。さらにこのユニットは20HP(馬力)をメインラインに冷凍機の増設によっては大形化へも対応することができるといえる。

さらに情報の先取りを推進する。現在、柴田熔接工作所では都内の品川区東大井へ支店を構える一方、さらに専従者と新たな事務所も検討中だ。一方のCAREL JAPANも神奈川県横浜市中北区へ拠点を構えている。柴田勝紀社長は「情報の最前線において、顧客満足度を高めるサポート強化が目的」とし、一層の注力を図っていくものとしている。